2023 年２月 13 日

各　位

会 社 名　株式会社アゴーラ ホスピタリティー グループ
代表者名　代表取締役社長　クォック・ゲイリー・ヤン・クエン
（コード：９７０４、東証第１部）
問合せ先　財務経理部　部長　石井　伸幸
（ＴＥＬ．０３－３４３６－１８６０）

連結および個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2022 年 12 月期の連結業績および個別業績の前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2022 年 12 月期通期連結業績と前期実績値との差異（2022 年１月１日～2022 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前期実績（A）	3,357	△ 1,367	△ 1,351	△ 1,683	△ 6.63
当期実績（B）	4,951	△ 1,401	△ 1,106	△ 1,298	△ 5.11
増減額（B－A）	1,594	△ 34	246	385	
増減率（%）	47.5%	－	－	－	

２．2022 年 12 月期通期個別業績と前期実績値との差異（2022 年１月１日～2022 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前期実績（A）	75	△ 710	△ 621	△ 786	△ 3.10
当期実績（B）	68	△ 756	△ 608	△ 629	△ 2.48
増減額（B－A）	△ 7	△ 46	13	157	
増減率（%）	-9.3%	－	－	－	

３．差異の理由

（１）連結業績

当連結会計年度における当社の売上高は前期を大幅に上回る 4,951 百万円（前期比 47.5%増）となりました。宿泊事業におきましては主に客室部門を中心に新型コロナウイルス感染症からの回復が認められ、その結果、宿泊事業の売上高は 4,053 百万円（前期比 52.7%減）となりました。その他投資

事業におきましては、当連結会計年度の売上高は 194 百万円増加して 897 百万円（前期比 27.6%増）となりました。これは主に、マレーシアの霊園事業の売上高の増加によるものです。次に営業費用につきましては、当社グループは全面的なコスト削減の取り組みとして、水道、ガス、石油などの使用量を適切に管理してまいりましたが、円安、資源高の影響を受けたこと、事業の回復にともない雇用調整助成金の申請額が減少したこと等により、営業損失は 1,415 百万円（前期は営業損失 1,367 百万円）と悪化いたしました。営業外収益として休業等に対する助成金 223 億円、持分法による投資利益 117 百万円、為替差益 78 百万円等を計上しましたが、営業外費用として支払利息 90 百万円等を計上したこと等により、経常損失は 1,134 百万円（前期は経常損失 1,351 百万円）となりました。次に、特別損失としてアゴーラ金沢の運営終了に伴う事業撤退損損失 107 百万円を計上したこと、法人税等調整額の計上等により、親会社株主に帰属する当期純損失は 1,306 百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失 1,683 百万円）となりました。

（２）個別業績

売上高は、宿泊事業からの匿名組合収入の計上がなかったことにより 68 百万円となりました。

費用面においては引続きコスト削減に努めましたが、売上原価に宿泊事業に係る匿名組合配当原価 194 百万円を計上したことにより営業損失は 756 百万円となりました。経常損失は受取配当金 80 百万円等を計上した結果 608 百万円となりました。また、特別損失として、今井荘の売却に伴う事業撤退損 20 百万円を計上したことにより当期純損失は 629 百万円となりました。

以　上